

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ブルーフ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.519	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ブルーフ

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

研磨剤

比較対照ボール：イントゥーイション・ソリッド

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

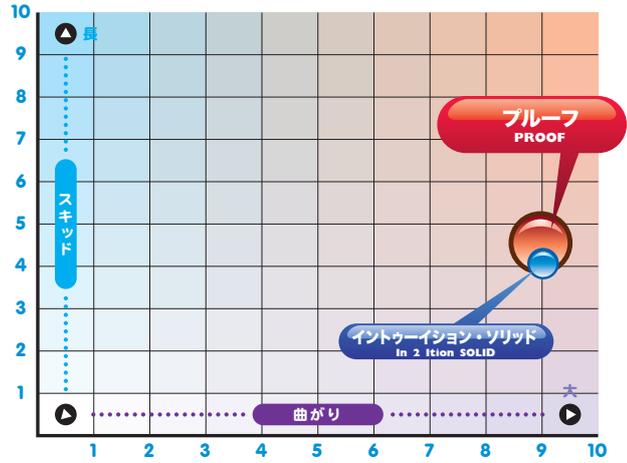
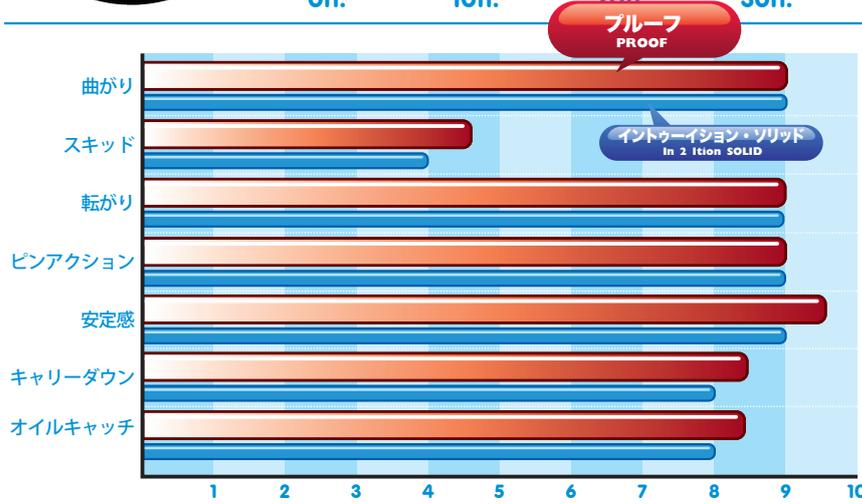
PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



ボールの評価

Columbia300とTRACK社で発売する4つのボールのうち、今回キャッチ系を担ったTRACK社の一つがこのPROOF。PROOFのために開発された新開発のコアに旧TRACKでHP領域で使用されていたPrimeカバーをバージョンアップさせ、Prime Response Solid Reactiveとして組み合わせることになりました。旧EBIのウレタン素材にプラズウィックの添加物が加わることで、今までのTRACK社のボールを上回るパフォーマンスがPROOFで実現されています。Midでの強めのプレーキ感と終わることのない持続的な曲がり(Continuous)がオイルに対しての強さと抜群な安定感を出しています。

投球すると曲がり始めが早めなのに、すぐ最後まで曲がり続けるな〜というのが第一印象で、それかなり幅をとっても投球できることに驚きました。こういうボールのほとんどが幅を取るとピンヒット手前で失速傾向になるのですが、このPROOFは最後までパワーが均等に伝わっているような曲がりをする。今まででいうとTRACK社のTACTIX(Blue)に曲がりのイメージは似ているのですが、曲がり始めてからの最後のRoll部分の強さが明らかにPROOFのほうがエネルギーが残っています。

しかもそれでいてTACTIXよりもオイルに強い。キャッチと持続性が高いボールがどれ程作成が難しいか、私はその難しさを知っていますが、見事にその難しさを克服しているレベルの高い仕上がりとと言えます。

テストドライブでABS契約の市原竜太郎プロがキャッチ感と板目を大きく使い投球していましたが、オイルに対しての強さと戻せる強さも兼ね備えていて、タイプこそ違えど私と同じようなイメージを感じていたようです。曲がるタイプでも直線的に投げるタイプにも同じイメージを描けるボールはそう多くはありません。それだけこのPROOFの仕上がりの高さがなせる業なのではないかと思えます。

特記事項

とても扱いやすいContinuous Hook(持続性のある曲がり)ですが、最後までキッチリ曲がりきる感じが、幅を多くとれるラインの選択も可能にしてくれます。抜群の安定感を誇るので、トーナメントプレイヤーには必見のボールです。